NORCニュース

社団法人 日本外洋帆走協会

会員の皆さんも、さぞかしお忙しい毎日をお過しのこととお察しいたします。 さて、NORCも長い間の居候生活からようやく脱出して、新春の1月中旬から所も同じ虎ノ門に、さゝやかながら単独事務所を開設する運びとなりました。いままでは日本海事広報協会のご好意に甘えて同居をさせて頂いておりましたが、12月には同協会の年末斗争ストライキの煽りによつて、このニュースの発行が遅延するなどの影響を受けました。しかし、これからはそうした懸念もな

くなるばかりでなく、交通も便利であり、 (本誌記事参照) 会員のご参集にも 気兼ねが要りませんので、大いにご活用願えるものと期待いたしております。

師走と総選挙が重なつたためまことにあわたゞしい街の様相となりました。

本年は、すでに「ちたⅢ」「白雲」など長期国際グルージングに従事し、今回も新鋭艇「VAGO」が雄躍シドニー、ホバート、レースに出場する等、太平洋シングルハンド横断レースの実施を初めとして、NORCの国際的進出も華々しいものがあります。これに平行して関東支部及び東海支部が会員の資質の向上を画して、種々の講習会を計画していることは、NORC発展のため、大いに時宜を得たものと心から歓迎する次第であります。

I 本 部	1
1. 为17回理事会開催報告	1
2. 本部連絡事項	
(1) 関谷会長喜寿を祝す	1
(2) 本部事務所の移転について	2
(3) 鳥羽バールレース会計報告	3
Ⅱ 関東支部	4
1. 1969年度冬期懇談会の経過について	4
2. クルーザー教室終了報告	record of the
3. 分 2 回初島レース報告	
4. オ14回神子元島レース成績表及び会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-575
5. オ3回初島レース(中止)報告	
6. オ7回小網代カツプレース報告	13
7. 下期シリーズレース等について報告	17
8. 支部連絡事項	20
(1) 講習会のど案内	6.20
(2) 冬期懇親会開催報告	. 22
Ⅲ 東海支部	. 00
1. 支部例会報告	
2. 常任委員会報告	
3. 2 3 5 「白雲」の動静	
4. レース委員会より ····································	
5. 海事思想晋及委員会より	
6. 対9回海技教室のおしらせ	
7. 支部通信対策特別委員会より	
8. CHITA IIの行動 ······	

№ 京都支部	33
(記事なし)	
Ⅴ 内海支部	33
1. 大阪湾横断レース	33
Ⅵ 西内海支部	35
1. 会費納入状況について	35
2. 支部会員の皆さまに	35
3. 広島、別府泊地について	35
Ⅵ 会員及び登録艇	36
1. 会員及び登録艇の現状	36
2. 会員の異動	37
(a) 住所又は勤務変更	37
(b) 会員間の異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
(c) 新入会員 (別途折込み) ······	
3. 新登録艇の紹介	40
あとがき	40

I 本 部

1. 第17回理事会開催報告

か16回理事会か2号議案において日時か決定され主として、安全規則の改正案を審議する目的をもつてこの理事会は開催され、健康を恢復された関谷会長をはじめ、遠く内海、京都、東海の各支部より5名の理事か出席し、下記により有意義に議事は審議された。

記

日 時 昭和44年10月4日(土)1350~17.30

場 所 東京都港区芝琴平町35 日本船舶クラブ

出席者 関谷健哉 大儀見黛 飯島元次 高村信 横山 晃 外山賢三 関根 久 吉谷竜一 角田 博 丹羽由昌 井上正春 類川三郎 松木 哲 計 13名

委任状 5通

審議議案

オ1号議案 諸規則の改正について

- (1) 安全規則
 - (2) レース規則
 - (3) 計測規則

オ2号議案 定款オ7条による入会者の承認について

オ3号議案 各支部提案事項について

2. 本部連絡事項

(1) 関谷会長の喜寿を祝す。

関谷会長は、12月10日めでたく喜寿をお迎へになられますので、12月5日下期レース表彰式を期して、会員多数出席し心ばかりの記念品を贈呈して、ますますど壮健にて 斯界のためにご活躍下さいますようお祈り申し上げるとともに、お祝い申し上げました。

(2) 本部事務所の移転について

長い間(財)日本海事広報協会のご好意により船舶振興ビル6階の同協会内に事務所を 置かせていただいておりましたが、このたび現在の事務所から約100mの所に、約11 坪ほどの事務所を借りることとなりましたので、皆様のご利用をお待ちいたします。

場 所 東京都港区芝虎ノ門15 虎ノ門ビル7階 入居予定 昭和45年1月12日の予定



机走委員長 福 吉 信 雄

収入	
出 艇 申 込 料 34隻×2,000	6 8,0 0 0円
申 込 遅 延 料 6隻×2,000	1 2,0 0 0
参加料(会員)128名×1,000	1 2 8,0 0 0
" (一般) 18名×3,000	5 4, 0 0 0
伴走艇参加料(寅丸)	2,000
前 夜 祭 " 2 6 3 名× 5 0 0	1 3 2,5 0 0
計	3 9 6,5 0 0 円
支 出	
レース本部運営費(宿泊費、食費、交通費)	100,436円
才1回艇長会議借室料	3, 0 0 0
真珠島前夜祭会費	1 3 2,5 0 0
傭船料(本部艇、歓送艇、テンダー)	3 3,0 0 0
電話料(城ヶ島特設、鳥羽度数料)	4,5 6 0
記録映写用フイルム(45本)	5 7,6 0 0
印刷費(帆走指示書、参加艇表、表紙)	2, 0 0 0
" (航跡図、レース成績表)	3,020
" (現地案内パンフレット)	1 4,000
金比羅宮お札(参加艇配布用)	3, 5 0 0
前夜祭用飲物代(ニツカウイスキー)	2 3, 1 8 5
マイクロバス借料	1 9, 9 9 1
謝礼金(楽団)	1 2,0 0 0
" (清酒、心付)	1 5,6 6 0
ガソリン代	9, 3 9 6
本部、東海事務連絡費	1 0, 7 7 8
消耗品代	4,790
雑 費	7,400
計	4 5 6,8 1 6 円
差引 出 超 額 6 0,3 1 6	円

Ⅱ関東支部

1. 1969年度冬期懇談会の経過について

実行委員 向井七男也

NORC関東支部冬期懇親会は12月5日1830より日本船舶クラブに於て、140名余の会員参加し下記により盛大に行われた。恒例による下半期各レース入賞艇の表彰、レース参加者及び新入会員に対する記念品贈呈、鳥羽バールレースの記録映画等、潮気に満ちた各催しと共に、関谷会長に喜寿(77才)の祝として柏村画伯の力作が贈呈され、又オーナー間で奇抜なブレゼントの交換が行われる等、海の仲間の和気あいあいたる楽しい一夕であつた。偶々、数日後にはシドニー・ホバートレースに出場する注目艇「VAGO」の乗組員が出発するため、武田オーナー、大儀見スキッパー以下クルーに対し、盛んな激励とシブレヒコールが期せずして湧き起り、日本ヨット界の意気軒昻たるところを示していた。

尚、新艇の紹介と新入会員に対する記念品の贈呈が幹事の不手際により時間なく省略したと とを深くお詫び申し上げます。会合の次为及び会計報告は下記の通りです。

NORC関東支部冬期懇親会 (於 日本船舶クラブ会議室 4 4.1 2.5)

式次为

- 1. 開会の詞(18.30)
- 2. 下半期レース入賞艇表彰及びレース参加者賞授与
- 3. 新入会員及び新艇の紹介及び記念品贈呈(44年8月1日以降入会者)

特別会員 4名

正会員 21名

準会員 6名

- 4. 関谷会長喜寿祝品贈呈
- 5. シドニーホバートレース参加艇「VAGO」激励及び記念品贈呈
- 6. 鳥羽パールレース記録映画の映写
- 7. 特別会員相互のプレゼント交換
- 8. パーテイー
- 9. 閉 会 の 詞 (21.30)

昭和44年度 本部・関東支部外洋レース入賞艇一覧表

/		Her		阙			Sign					1		5		К		迤				77	大	*(!	神乙十	(10	平:	*
7	/	@	別	整			√ □			П			E				N	M			Ν	マーボイドー		X(5/11.6/8)	神乙中ロジョーナ	(10/12.11/6)		ドイントフェメ
と名			/	桳	П	_	64	-	1	7	က	1	2	3	4	1	63	es	4	н	67 6	1000		3 6		2 6		
4	回 8 未	八文島	5/1~5	高松宮 杯 NORC 会長杯		はやまる	M.SUNBIRD	智	M. SUNBIRD	1	1	はやまる	ı	1	1							M SUNBIRD M	行やする	CONTESSAI	第	飛車角 II 足 柄	(前期)	5/11 6/8
金	小10回	島羽パール	7/25~27	バールカップ 産 経 杯 バフリーナー	カンプ(N, V)	VEGA	VELA	ドンドロー	CONTESSAI	M. SUNBIRD	1	RED SHARK	第	1	1	VEGAII	ドンドロコ	明日香	JOKER	VELA	1	M. SUNBIRD					4/20	
	1 回 1 元	初 島	4/5~6	オリンパス		くろしお目	RED SHARK	江中京 3	如	M SUNBIRD	1	くろしおⅡ	RED SHARK	はやまる	1	40	竜飛		ı			14812					RED SHARK ··· シーボニア杯	い。近
翠	3	大島回航	4/26~27	天 ヨ 木		RED SHARK	M SUNBIRDIC	足柄	M. SUNBIRD 潮		1	RED SHARK	足柄	1	1	SIRENA	11 to 8	1	1			M SUNBIRD M					-ボニア林 \$11	田外
民	少1 9 回	大 島	5/24~25	説市杯シアンプライ		竜	以中京 名	湖風。	画	M SUNBIRD	1	第 王	はかまる	足柄	ı	SIRENA	光度はぜ II	1			l z An	M SUNBIRD	1				SIRENA能來	
n	2	初島	6/28~29	舵杯		VELA	KE LONI A II	明日香								KELONIAI	明日香	Σ_	光深はぜ I	VELA	BELL	CIMA					(後期)	10/01
X	沙14 回	神子元島	10/17~19	神子元 杯		華 王	飛車角II	10	M. SUNBIRC	t	1	争出	飛車角II	1	1	SAMOAII	ME LUS I NE	りばら				H					/	
船	3	初島	10/25~26	初 晶 —						1							4	-									(クラス川川) (クラス 足 柄 と MA	1
	回 1 余	小網代カング	11/22-23	小網代杯		10	(董) 王	4											H								(29×NV) CIMA··舵床	LA.

NORC関東支部冬期懇親会会計報告

実行委員長 名 和 幸 夫

収 入

参加会費	1 4 8 名× 1,3 0 0 円	1 9 2,4 0 0
22	計	1 9 2, 4 0 0

支 出

<u> </u>	1 .	4 6, 2	3	0
消耗品代(リボン徽章、サインブック他)		1, 1	. 8	0
式次分印刷代		1, 8	0	0
心 付		2, (0 (0
盛花代		Ę	5 0	0
飲食代	1	3 1, 6	5	0
会場借料(スクリン代含む)		9, 1	. 0	0

差 引 残

4 6,1 7 0

2. クルーザー教室終了報告

4 4. 9. 2 0

海事晋及委員 落 合 公 平

- (1) 受講者数 1 4 名
- (2) 講習内容

座 学 3回(18.30~21.30) 8/14. 21. 28

実艇訓練 3回(8/17<8時間>9/7.9/14<15時間>)

(3) 講習要目

クルーザー入門心構 。帆走理論概説 。海上衝突予防法概説
 海上交通マナー ・チャートの読み方。チャートワーク。船位の求め方。航速計算 。実技(。ロープワーク10種、フィッテング ・操舵、操帆 。 D F 。 クロスペアリング。チャートワーク、当直、投錨、抜錨)

(4) 協 黄 艇 6艇(延べ11艇)

OLYMPUSI

8 / 1 7 9 / 7 9 / 1 4

天 城 明日香 RED SHARK

飛車角 II OLYMPUSII 明日香

SALMONII OLYMPUSII

RED SHARK

明日香

概況

前記内容、要目に従い施行した。内実艇訓練1回(8/31)は台風のため延期となり、 脇養斑も予定が変更となつたために不都合を生じ、結局「RED SHARK」「明日香」 「OLYMPUSⅢ」の3艇のみで担当せざるを得ず、2日に分割して夜間帆走実習を行っ た。参加者は例年になく少数であつたに拘わらず皆大変熱心で活気のある講習に終始し得た ことは嬉しい。既にオーナーである人、近くオーナーを目指す人、夫々に具体的計画を持つ 人が90%を越え、必要から出た受講が意欲の盛上りとなつて表われたものと考える。充分 の成果あつたものと確信する。

3. 169年度第2回初島レース報告書

帆走委員長 武 田 光 弘

梅雨の合間をぬつて行なわれた本レースは幸い好天に悪まれ快調なベースで終始した。 レース成績は別表の通りであるが、本レースに関する主要データは次の通りである。 参加 艇 数:クラスN 17隻 クラスV 6隻 計23隻

失格、リタイヤー:0隻

ス タ ー ト:69.6.28 18.00 フライングスタート

初島灯台をMAG 0° に見た時刻:28日23.50.00~29日00.45.00

フィニッシュ:04.37.37~08.09.41

所要時間:10.37.37~14.09.41

気 象・海 象:初島付島で風おちるも全般的にSWの順風、天候は晴時々發 月は十四夜、 波良好

帆 走 状 況:往路、ほぼ初島へ一本のクローズホールド 復路、ランニングないしクオーター

トラブル:2件

(1)スタート直後「彩雲」か大網を避けんとして風下艇「MAUPITII」 にルームを要求したが、「MAUPITII」はこれに充分なルームを与 えなかつたため、両艇が接触したもの。

「彩雲」からは抗議なし。

(2)「MELUSINE」航海灯放漳のため点灯せず。

本レースに関し、特記すべき点は次の通りである。

1. 本レースは参加しうる艇の資格がクラスN及びVのみに限定されたNORCでも珍らしい レースであるが 参加艇数は23隻とかなりの数にのぼつた。

これには比較的穏やかな条件での初島レースに面白みを感じて参加されたむきも多いと思 われる。今後ともこの種のレースを望む声は強いと予想される。

2. ν -ス初出場の「CIMA」は日本ではじめて輸入されたCALだけに、皆の注目を集めたがクラス3位、総合4位と予想通りの成績を収めた。今回のような気象、海象条件では絶好の艇と云えよう。

又「VELA」は参加誕23隻中下から2番目というT. C. Fにもかかわらず、TOP 艇からわずか10分遅れてフイニッシュし、修正時間で2位を6分離して総合優勝した。2 位以下の修正時間の時間差が1~3分であるから、かなり良い成績とみるべきだろう。又今 回のレースではクラス Vの 2位か総合では10位であるから、この意味でも「VELA」の活躍は光つている。

尚TOPから1時間以内にフィニッシュした艇は、なんと21隻に及んだが、余り時間差が 開かないコースであつたとはいえ、驚くべきことである。今後レースに勝つためには艇技術 ともかなりのレベルに達していなければならぬことを、改めて見せつけられた思いである。

3. 「MELUSINE」の航海灯が点灯していなかつたことについて、2.3の奨から公式の 抗議か出ていたが「MELUSINE」からは文書により次の様な報告かあつた。

「28日20.30頃航海灯のヒューズボックスにトラブルが有り、修理して21.45より再び使用したが30分位で再びトラブルを起し、その後修理できなかつたことを報告します。」69%NORC安全規則は、航海灯が点灯不能になつた場合はあらゆる航路権の主張を停止すべきことを定めているが、本件については、他艇より航路権を主張されたとして正式の抗議の意志表示が無かつたので、コミッティーとしては同艇にベナルティを課さないこととした。

1969/第2回初島レース会計報告書

		帆走委員長	武	田	光弘
収	入				
	出 艇 申 込 料 2 4 隻× 2,0 0 0		4	8, 0 0	0円
	申 込 遅 延 料 3 隻× 2,0 0 0			6,00	0
	会員参加料 75名×1,000		7	5,00	0
	非会員参加料 10名×3,000		3	0, 0 0	0
	. 合 計	1	5	9,00	0円
支	Ш				
^	本部運営費(食費、交通費等)		2	4,00	5円
	为1回艇長会議借室料			3, 0 0	0
	シーポニア借用料(会議室、ハーバー)			5, 0 0	0
	テンダー借用料			3, 0 0	0
	電話料(特設料金)			3, 6 4	0
	印刷費(帆走指示書、出艇表、表紙等)			2,00	0
	消耗品代(燃料代)			2, 2 5	0
	雜 費			9 6	0
	合 計		4	3, 8 5	5 円

1 1 5, 1 4 5 円

'69年度第2回初島レース成績表 ('69.6.28~69.6.29)

着順	m	ıs	63	6	90	4	7	10	11	Θ	12	14	16	18	21	22	23	9	17	13	12	19
有物	(03)	(e)	4	2	9	2	8	6	п	13	15	16	17	20	21	83	83	0	9	12	14	18
順クラス派		(e)	69	9	ıs	9	7	8	6	10	п	12	13	14	15	16	17	0	(N)	6	4	2
	6	4	1	Н	22	2	6	7	es	9	00		7	н	0	4	co.	6	7	2	n	5
盐	e ro	0 4	57	• 2	. 2	4	0 4	4	.5	0	0	.5	0	. 1	50	. 5	3	2	. 2	03	2	4 0
	31	34	3.4	36	37	3 7	3	3 9	43	4 6	47	5 5	2 8	17	27	32	0 1	2	43	44	47	5 9
비		0	•				0	•		0		•	•	0	•	•	0	0	0		0	0
剩	0 7	0 7	0 7	0 7	0 7	0 7	0 7	0.7	0 7	0 7	0 7	0 7	0.7	0 8	0 8	0 8	10	0 7	0 7	0 7	0 7	0 7
	4 6	4 6	27	0.0	40	3.2	2 8	5 9	0.4	1	10	6	26	2 0	2 8	0	1	7	6	4	1	00
世			۰			0	0			.3		0 .	•	0		0.4	0	. 2		.3	. 2	
图	44	47	42	5 1	50	46	48	5 2	57	37	5 9	11	2 1	36	40	H	6 0	00	3.4	0 4	18	3 7
	0	. 0	. 0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0	•	•	10	2 .	0	0	I o	0		0
形	Н	1	Н	Н	Н	1	Н	Н	٦	Н	Н	Н	Н	Н	Н	Н	ਜ	H	Н	Н	Н	-
時間	9	9	7	0	0	2	00	6	4	1	7	6	9	0	00	0	1	7	6	4	н	00
	9	9	0 2	0.	4	9	9	5	0.	00	0.	0	5	. 2	.2	4 0	0 4	2	4	00	23	
コッシュ	4 4	47	4 2	51	5 0	4 6	4 8	52	5 7	37	2 9	11	2 1	36	4 0	11	6 0	8	3.4	0 4	18	3.7
11			0			•		0		•			•	0	0		•		0	0		0
7	0 4	0 4	0 4	0 4	0 4	0 4	0 4	0 4	04	0 4	0 4	0 5	0 5	0.5	0 5	9 0	0 8	0 4	0 5	0.5	0.5	0.5
L	1	2	00	Н	က	80	2	4	9	н	0	6	-	4	ın	1	8	7	7	6	6	00
c	7 0	0 4	0 4	0 4	0 2	7 0	0 4	0 4	0 4	3	7 1	0	0 4	7 1	7 2	0	0 4	ω	9 9	6	8	8
<u> </u>										. 7		. 7				7 .		9		9	. 6	9
	谷	灉	Ξ	巖	¥	本	П	- 63	¥	船	#		副	ш		П	K	HE	-		米	谷
%	141	Total		10	N	+	Ц	10	N	ALL	+	H	dut	田	田	田	1	11-	H	Ш	#1/	14
スキッパー	K	加	長谷	女	\exists	滐	罪	中	女	点	能	口		址	加田	女	够	村	妆	K E	区	40
1	女	機	JII.	圏	*	本	瀬		民	船	屋	機	嗣	H	E-m	林	*	H			币	谷
+	*	700.0	令	menti	14	*	100	10	儀月	ЯII	moni	Total	SH	ш	ш	+	1	ш	Ш	Ш	16	4
1	1 rar			-11	-	1154	nte	七		17	61	11.3	· tro	nd en	late:	1	An.	4.7	-44-	1.0	17	Itee
*	图	二二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	啦	+1	∃	株	並	Sincis.	+	村	世	江		业	_	÷	級	哲	/ H88:	表於	X	40
1,000	п	梅	A	H	0	×	黑	麗	A	Н		K	0	П	A	Н	C	A		瓤	Н	10
竹	A			中		×			Z	Z			g	_	0				BE		V	8
	-		Σ	183	α				ш	_				-	Z)	_	-		0	-
	z	Ш		t		α				S	40		Z	-	1				ď			9
	0		-	24.6	-	A			a.	_1			-	۵.	A		0	ш	X		Σ	-
崇	H			176		I			_	Ш			\supset	AU	0				Z	4	A	10
	X	田	O	龙	I	S	鮰	恒	S	Σ	nD	\prec	S	Σ	z	漱	7	>	-	炌	S	46
4 1 7 W	4 2	8 0	5 1	1.8	1 9	4 0	5 9	74	4 6 2	9 4	9 9	8 1	9 7	17	7 8	0 2	3 0	4 1	3 3	6.0	3 9	5 0
4 -	9	9	9	9	9	'n	9	m	Н	က	8	33	00	က	Н	9	9	9	9	9	9	3
K	N																	>				

5. 第3回初島レース (中止) 報告書

帆走委員長 岩 田 禎 夫

オ3回初島レースは10月25、26日の両日、小網代~初島(反時計回り)で行なう予 定だつたが レース、スタート時、天候不良のため中止した。。

以下中止決定に至るまでの経過を報告する。

参加艇状况

今回は最後まで参加艇数に変動が多かつた。参加申込〆切日の10月6日までに申込んだのは23年、オ1回艇長会議(10月20日)の最終エントリー時点で、取消4年、遅延申込6年、計25年(他に伴走1年)、更にレース当日の25日には6年が出艇取消を通知し、最終的には19年参加の予定となつた。

10月25日の状況(レース本部、シーポニア・ヨット・クラブ)

[出艇申告]

15時からシーポニア。ヨット。クラブ受付けを開始、16時の〆切時刻までに申告しなかつた艇もあつたが、悪天候で準備に手間どつているものと見て、〆切時刻を少し延期、16時30分に最終的の申告を終了した。

当時海上は、NNW10~13m/sec、波浪やや高く、雨。しかし天気図及び予報によれば、天候は回復に向つていることがわかつた。

本州南海上を低気圧が東進中であり、この低気圧の通過後の好転は充分予測出来たので、 当初、オ2回艇長会議は行なわない予定であつたが、現場附近の天候は、必ずしも予報通 りの回復を見せていない。

スタート時の18時(クラス II. II は <math>18時 30分)にはまだ風雨とも残りそうであつたため、15時 40分、艇長会議を召集することを決定した。

艇長会議は17時30分とし、その会議において、スタート時刻を延期し、23時とすることを通告した。

なお参加艇も減少したため、各クラス同時スタートとした。

[その後の天候と中止に至るまで]

相模湾内、大島北方、城ケ島西方10 埋の海上にあつた巡視船「のじま」による17時

の観測では、「NNW13m/sec 、最大瞬間18m/sec 時々突風あり、液浪の高さ4m」であつた。

一方、回復に向うと見られていた天候は、少しも好転のきざしを見せず、かえつて風雨 とも強まる傾向さえ感じられた。

2 1時 3 0 分、横浜測候所からのデーターによると、「急速に東海上にぬけると思われた低気圧は、その後房総南方で停滞し、今後 4 ~ 5 時間、足踏状態を続ける模様、海上は 2 0 ~ 2 5 m/ sec 、波浪の高さ 4 m 」であつた。

その頃棄権を通告してくる凝もあり、また気圧計は1006mb (18時)から1004mb (21時30分)と降下を示した。なんとか22時の天気図を取つてから後にレース 決行か中止に踏み切りたいと思つたが、これでは23時のスタート時刻との関連で時間的 に無理があり、中止を決定した。

中止にあたつては再度艇長会議を召集せずに"中止決定"のみを通告。ただちに、各艇から確認の返事をまとめた。

しかし、小網代フリートの「飛車角 II 」「TIL DE」の2艇からの返答がとれず、再 度連絡を出したが、「艇に人影が見えない」と連絡係が戻つて来た。

急のため24時までレース本部を続開していたが、23時のスタート時刻にスタート地点に向つた艇も見えず、また、問合せもなかつたので、10月25日24時をもつてレース本部を閉鎖した。

なか、房総沖に停滞した低気圧は26日0400頃から北東進を再開それに伴つて発達 も見せ0600には中心気圧996mbを記録した。

26日は早朝より快晴となつた。

一部に「廻去2年続けて中止となつているため、今回もあまりに神経質になりすぎたのでは」とレース中止に対する批判もあつた。

しかし、25日夜半の天候を考えた場合、"中止"は妥当であつたと確信する。

1969年第3回初島レース会計報告

帆走委員長 岩 田 禎 夫

NORC関東支部

収	7
1	/

出艇申込料	2 9 隻× 2,0 0 0	5 8,0 0 0 円
遅延申込料	6 隻× 2,0 0 0	1 2,0 0 0
合	at	7 0, 0 0 0 円

支 出

合計	4 1,000円
消耗品代(バッテリー充電料他)	1, 4 3 0
印刷费(帆走指示書、出艇表、表紙)	2,000
コミツテイーボート係船料(8日間)	6,000
テンダー借用料	3, 0 0 0
シーポニア借用料(会議室、ハーバー他)	7,000
为 1回艇長会議借室料	3, 0 0 0
本部運営費(会費、交通費等)	1 8,5 7 0円

差 引 残 金 2 9,0 0 0 円

(注)特設電話は前回レース既設のものを延期使用につき度数料金と共に未支払

6. 第7回小網代カップレース報告

富 永 弘

レースは11月22日(土)1000小網代湾口をオ一陣のクラス $\mathbb N$ が9 隻、NNE的8 mの順風を受けてスタート、30分遅れでクラス $\mathbb I$ ・ $\mathbb I$ 13 艇が無事スタート、大島廻航 (時計廻9)直線約68 里のコースを甲込28 艇、内6 艇 $\mathbb D$ NS、出走22 艇で行はれたが、

小網代カップは千葉大学の好漢「くろしおⅡ」か獲得した。

スタート時の気象はNE~NNE約7~8 mの順風が各艇を追手で大島方面に運び、レース展開は大島迄のコースよりも、上りのコースで決着が付きそうな気象であり、特に数日前迄の暖い日射しと違い、スタート前夜からは気温も下り、上りとなる夜間は乗員にとつて厳しいレース運びとなろう事は必至であつた。

気象は22日早朝には九州南岸から鹿島難沿岸に前線があり、高気圧は東北々部にあつて NEの風は相模湾全般に吹き渡り、レース日和としては風に恵まれてはいたが、スタート時から夜間に至る迄で夕方の様に日射しは無く肌寒い海上であつた。又22日昼すぎには台湾南方にあつた低気圧が四国と房総沖に進出し前線はレース中本州南沖合に張らればなしとなり、レース本部の気圧計もスタート時1024mbであつたか、進むにつれて下降線を取り一抹の不安があつたが、下降は緩慢であつた。(最低1017mb)

1525 「 C I M A 」か D N F で帰港、スピンポール にトラブルを起したとの事であつたが、乗員の練度等を考えて早めの棄権であつた。

レース挺はNE~NNEの順風を受けて、一路竜王崎を目指したが殆んどの挺か岡田港方面の西へ若干流され気味であり、これは各艇プローチングを重ねながら徐々に西に流されたものと思われ、竜王崎確認の上位置を出し竜王崎に進出した、後発のクラス『「MISS SUNBIRD」は早くも1501には竜王崎Sを通過、続いて少壮「KELONIA』」が4分差で通過した。優勝した「くろしか』」は竜王崎で「MISS SUNBIRD」に遅れる事実に39分でありながらフィニッシュ時の差は18分と云う追込みを見せ「くろしか』」の上りのコースでの航海術、帆走術、艇のコンデションがいかに素晴しいかを物語つている。

又ファーストホームをした「竜王」は「MISS SUNBIRD」と小網代湾ロでデッドヒートの末、秒の差でファースホームの栄冠を獲得したものであつた。レースは竜王崎を交(回)すと差木地~千波崎の間を全くの凪となり、「さがみ』」で至つては追手のコースで折れた全パテンをセールを降して新品を工作して入替る程で、延によつては竜王崎へ向いてしまい、しばし停船(戦)する有様で、ここでレースは再スタートの様相となつた。いよいよレースは山場である千波崎からの上りのコースとなり延長、ナビゲータの腕の見せ処とな

るが、好漢「くろしお II 」は素晴らしい航海術を見せ、確実なタッキングを繰返し理想的な 勝ぶりを見せてくれた。

又ファーストホームをした「竜王」も東京湾口、沖の山東側の好位置から上り上手を見せてくれた。参加艇中唯一のセールNa 1 0 0番代の老兵「さがみ』」は殆んど「竜王」と同一コースを引きながら 1 0位に終り、上りであと一吹の不足が悔まれた。

レースは大島を離れると風は弱まり単々とした上りのレースとなつたため、早めにレース 終了する事が出来た。

レース中であつた事故は「CIMA」のスピンポール金具の破損、「さがみ』」のスピンポールがシートから離れたためで前方ライフラインスタンションを曲げた事等が報告であった。

第7回小網代カップレース会計報告

弘

			帆走委員長	T.	चें च	永	
収	入						
	出艇申込料	2 8 隻× 2,0 0 0		5	6, 0	0	0 円
	申込遅延料	3 隻× 2,0 0 0			6, 0	0	0
	会員参加料	7 8 名× 1,0 0 0		7	8, 0	0	0
	非会員参加料	19名×3,000		5	7, 0	0	0
	合	計	1	9	7,0	0	0円
支	出						
	本部運営費(食費	、交通費等)		2	0, 2	1	0円
	才1回艇長会議借	室料			3, 0	0	0
	シーポニア借用料	(会議室、見張所、ハーバー)			9, 0	0	0
	テンダー借用科				3, 0	0	0
	電話料(特設料金	、度数料含まず)			6, 0	4	0
	印刷費(帆走指示	書、出艇表等)			2,0	0	0
	消耗品代(乾電池	、積層電池、他)			2, 4	6	0
	雑 費				1, 4	5	0
	合	計		4	7, 1	6	0円

差 引 残 149,840円

第7回小網代カップレース成績表

(%光)	藩順		7	13	c)	-	2	4	9	7	80	П	15	16	22	10	6	12	14	10	9	ST	17	8							
位	総命	c	0	16	\in	9 (20	<u></u>	4	9	7	6	10	15	18	21	D	11	17	27	4 7	17	77	13	8						11176	
画	ラス		4	73	-	1	7	က	4	2	9	7	00	6	10	11	-	2	m	*	, п	0 (0 1	,	00			ı				
	1		=	*	E	1	*	*	"	=	*	"	*	"	*	=	≥	*	*	*			:	*	*							
			2 1	1 6											19				6													
	바		43	3 9											49			0	2 5				0 1									
				1.4	-										14				1 3													
	E		7	1 0		4	00	4	7		ın	2	2	4	1 9	6			2 15								-75	125				
	水			20	0 9										47		4.2		4 60				2 0									
	五			1 8								16			1 9	2 4			6 1				0 7									
E	(iii			10											1 9	3 9) IC				1 0									
	业	Œ	-	20	0	5	-	80	2	e	-	00	2	2	2	30	0	-	4 65	, ,	٠,	- 1		0	0							
	到產	(23	7	22	0	1	2	2	2	2	es	n	4	9	9	10	co	c.			2 0	0 (٥	9	2							
40	TO THE	1	_	2	-	>	1	0	r)	9	25	8	0	0	0		ıc	7	. 00	,	4 6) L	0	0	9							
竜王崎灯	回航時	(22日)	2		U	2	ın	2	ro	2	r)		2	9	16 0		LC	٧	1 1 2		dt Li	n 1		ı,	2							
-	T. C. F	8 8	85	.778	Lf.	0	9	4	9	10	4	S	7 4	7 3		.743	7 0	C	7 0 0	2 0	2 +	7 /	0 /	CV	0	.708	9	S	4	3	. 707	0
-	政		40	無	Œ	R	品	思	海	岛	用	*	次	Z	华	明	松	1	1 1	K-1	V L	JE	+1	1	州			-				
				世	排	¥	11	谷木	英	證	端	卷	元	NSS	H	沒							4									
			(III	麻	#	\$	河	島	東		原	图	個	JA	#		*		4 H													
-	幣		_	無	-	5	15	M	丽	国	华	4	假	-3	日	周	+		#+	-	-											
	1			料	中田田	V	型	選	夫	犯	禹	犯	X	SEP	下金	明	100		拉	1-1	11	DE	+	号也	柳	川屋一郎	一問	理	2		11	
	+			世	#	1	秀	樂	州	~	報	共	: IK	INS	御	題		I		+	Z H	7	4	中	益	Hola	值大				一	
	1			油	1	ij.	lm/	₩	u.	B	中原	H	自	1	Щ	un	Te tra		I K	4 15		田 <	(II	#	*	是级	1厘	*	水	日日	in in	1
	*			無		_			N	奥	香	K	8	7	中	園			1+							mk.			置			
	谷		SUNBIRD	胀	4	7 0	H			強	CUREANI	1	1	D	><	AII			U III			- 8	0	LEN		M			版	2	2	Z
					-	۷		40-6			JRE		1.8	لـ	TUNE	IOLA	ALNO	7	5 C)	À	יט :	Z	L		1000	CONTESSA	RINA		LUS		T.
1	盟	1 3	SS		N	0		4	100		PIC		35	_	EPT	_	_	1	M				L <	0	0	-	TNC	d		W		-
			Ξ	智	1	-	御		R		Ш			!	Z	A	×		\ V				0	A	7	O	10000		따	Σ.	T	
セーブ	N		00	909		013	009	614	-	615	3	6 2 2	9	9	in	625	7	4 0	0 0	> 0	0 0	0	-			651		636	-	0		
	クラス		П	"	Б	Ħ	"	"	"	"	"	*	"	"	"	"	W	. "	. "				*	"	"	DNF	DNS	"	"	"	"	"

7. 下期シリーズレース等について報告

4 4年度神子元シリーズレース 大三戦は、11月16日、小網代 - 藤山田往復コースで開催された。シリーズ参加艇22隻、他に神子元レースに不参加艇によるフレンドシップレース参加14隻、伴走5隻合計41隻か出走した。

前夜は20mを越すと思はれる強風とひどい雨があり、当日の天気が心配されたが、午前中は薄日がさして小雨のNE5m、午後は晴れてSSW4mと暖かなおだやかすぎる位の天候となり、パーティーを考慮して決めた1530mのタイムリミットにフィニッシュしない艇が9 隻もあるのんびりしたレースになつた。

レースの経過は、クラス N グループ「VEGA」「SAMOA II 」がよく走つたが
「VEGA」は神子元レース D. N. Sのため「SAMOA II 」がシリーズ 5 位に入る。クラス II. II では「足柄」が快走し「竜王」を C. TIME で約 2 分押えてトップをとり、通算で 3 位に喰いこんだ。「竜王」「飛車角」は神子元レースの 1.2 位の得点を守りきつてシリーズでも夫々 1.2 位を占めた。結局シリーズチャンピオンは「竜王」チャンピオンフラグは「竜王」「飛車角」「足柄」と小網代グループによつて独占されたことはやはりがつちりまとまつて優秀なフリートの所属艇はレースにもよい結果を示していると云うことで今後各フリートとして考えなくてはならない問題である。

フレンドシップレースでは II・IIで「RED. SHARK」か 1.1で1 位、「BLUERIBBON」か 2.4で 2 位を獲得、IV・ Vでは「明日香」が 1.2で1位「SHARKX」が 2.3で 2 位のカップを授賞した。伴走艇の 5 ち「EPICUREAN」は東海支部からの特別参加でよい走りを見せ乍ら E・T・6.0 2.1 8 であまりよい結果を出せなかつたが、チューニングか未完成であることとあまりの凪で実力を発揮出来なかつたことと思はれる。他に「正覚坊」「フルトラII」の初参加があつた。終了後シーボニアヨットクラブで成績発表とフレンドシップレースの賞品授与か賑やかに行なはれた。

今年度はシリーズを含めて10回の短距離ボイントレースが行はれたが毎日30隻以上、 最高41隻の参加があつて非常に盛大であつたことは大変喜ばしいことであるが、会費未納で 参加資格に欠けたり計測で問題があつたり中に帆走技術の未熟から他艇に損害を与えたりし たものがあつたのは少々残念である。いつの時代も新しい人が来て多少の混乱があるのは避けられないことだが、NORCの力でその混乱を少なく、今後もよりよいレースにして行きたいと思う。最後にこのレースを無事に終ることか出来たのはシーボニアを始め各マリーナの協賛のおかげであり、毎回のレースにコミッティーをひきうけてくれたメンバー各位に感謝します。来年度の盛会を祈ります。

NOR C関東支部1 9 6 9 年度相模湾ボイント・レース終了報告

NOR C関東支部ボイント・レースは11月16日のレースをもつて、1969年度レースは日程通り全部完了致しました。

幸い天候にも恵まれ、又参加者もふえて特に大きな問題もなく完了することが出来ました。関係者一同の協力に感謝します。

会計報告は別紙の通りですが、これも予定以上の黒字にて終ることが出来ました。なお、参加 擬数は下記の通りでした。

春季ポイント(3回) 91艇(2月~31艇 3月~30艇 4月~30延)

大島シリーズ(2回) 57 優(5月~29 艇 6月~28 艇)

夏季ポイント(3回) 102年(7月~30年 8月~31年 9月~41年)

神子元島シリーズ (含親睦レース 2回) 78疑(10月~37凝 11月~41凝)

合 計 328艇

以上

ポイント・レース運営委員会

森村譲二 関根 久山崎 達光 野呂光尊

麻里真三

1 9 6 9 年度ポイント・レース会計決算報告

1. 入 金 2. 出 金 春季ポイント 18 2,0 0 0 春季ポイント 15 9,0 0 0 大島シリーズ 11 4,0 0 0 大島シリーズ 74,16 5 ジリーズ・エントリー・フイー 2 5,0 0 0 夏季ポイント 19 0,1 4 5 夏季ポイント 23 2,5 0 0 神子元シリーズ 7 1,5 6 0 神子元シリーズ 15 6,0 0 0 ジリーズ・エントリー・フイー 2 7,0 0 0 合 計 49 4,8 7 0円

残 金 (NORC本部納入金) 241,630円

註)1.出金額にはレース用備品購入費 ¥108,125を含む。

2.夏季ポイント入金には1968年度ポイント・レース残金受入れ ¥ 2 8,5 0 0 を含む。

NORC関東支部1969年度神子元島シリーズ/

ポイント・レース/親睦レース会計報告

昭和44年11月20日
レース運営委員会 森村譲二

1. 収 入

出 艇 料 @¥2,000 10月 37艇 74,000円 11月 41艇 82,000 合 計 156,000円

2. 支 出

イ)コミッテイー/運営関係費用

а	コミツテイー経費 ¥900×2回	1	8,	0 0	0円
Ь	マーク設置料 @1,500×3ケ所×2回		9,	0 0	0
С	ヨツテル借料(11月のみ)		3,) 0	0
d	コミツテイー昼食代		2,	4 0	0
е	コミッティー/運営委員打合せ費		3,	2 7	4
f	事務費コピー料等		2,	0 1	. 0
g	レース旗 2枚		1,	0 0	0
h	通信/送金料及び運営委員会合費		1, 5	5 9	6
111	合 計	4	0, 2	2 8	0円
2)	表彰式関係費用				
а	カップ代		8, 2	2 8	0円
b	パーテイー費用	2	0, () 0	0
	合 計	2	8, 2	8	0円
·) -	その他				
	葉山鈴木氏御礼(1969年後期分)		3, (0 (0円

収	入	計	1	5	6, 0	0	0 F	9		支	出	計	7		1, 5	6	0円
							差	引	残	高	8	4, 4 4 (P	9			

8. 支部連絡事項

(1) 講習会の御案内

運輸省当局は昭和45年7月1日より小型船舶の取締りを強化する方針を確立し、その対象に補助機関付ヨットも含まれる模様なので、理事会及関東支部常任委員会としてはその対策について種々検討した結果、関東支部としては本協会の定款に基づく事業活動の一環として、下記の様に講習会を開催致します。

大変重要な意味を含んでおりますので、会員各位は是非御参加下さる様期待致します。

(尚小型船舶操縦士免状その他の問題については12月22日に開催されるオーナー会議 に於て議題として 討論される事と思いますから、各オーナーよりくわしくその模様をお 聞き下さい)

記

◎場 所 船舶振興ビル10階

◎日 時

1月20日 18時30分~19時30分

「海事法令のあらまし」

高村常務理事

口 19時30分~21時30分

「海上衝突予防法について」

田 辺機氏

(会員=元航海訓練所教官 日本原子力船開発事業団運航準備室)

2月24日 18時30分~19時30分

「海事法令のあらまし」

高村常務理事

同 19時30分~21時30分

「NORC安全規則について」

近藤安全委員

3月24日 18時30分~19時30分

「巻則法について」

高 村 常 務 理 事

同 19時30分~21時30分

「NORC外洋レース規則について」 高村総務委員

4月21日 18時30分~19時30分

「特定水域航行令その他」

高村常務理事

百 19時30分~21時30分

「NORC計測レーテイング規測でついて」周東計測委員

5月19日 18時30分~19時30分

「航海術でついて」

高村常務理事

ū 19時30分~21時30分

「外洋ヨットの帆走について」

関 根 理

6月23日 18時30分~19時30分

「運用術について」

高村常務理事

19時30分~21時30分

「外洋ョットの帆走について」

関 根 理 事

◎会 費 尚資料代その他実費として、各回500円の予定

昭和44年12月15日

名 和 記

広告!

(1) 近く舵社よりヨット及びモーターボート用万国信号書抜粋(NORC高村常務理事編)「ヨット・モーターボートの信号の手引き」が出版されることとなりましたので と愛用をお勧めいたします。

(2) NORCでは近くョット用ログブックを印刷発行いたしますのでと希望の方はNO RC本部にお申出で下さい。

定価等については追つて発表いたします。

Ⅲ東海支部

- 1. 支部例会の報告
 - 10月2日支部例会に於て70-71年度役員を次のように決定しました。

。支 部 長

角 田 博

○副 支 部 長

丹 羽 由昌

。事 務 長 佐藤 充 弘 (事務局員 奥 村 道 子)

○監 査 委 員

天 野 和 茂

o 鬼崎フリートキャプテン

水上 健

・衣浦フリートキャップテン 竹内 佐知彦

。海事思想普及委員長 兼ポートキャプテン

角田 博(委 員 與 村 道 子)

○レース委員長

大橋郁夫

。計測委員長

坂 井 繁 之 (委 員 水 上 健)

(" 榊原嘉男)

"大原信国)

(" 都 築 勝 利)

。安全委員長

今 関 康 志 (委 員 西 脇 良 夫)

∘水路委員長

横山 武司

• 泊地対策特別委員長

津 端 修 二

。通信対策特別委員長

伏原幹一郎(委員大橋善一)

忍) 佐々木

2. 常任委員会

- 11月6日支部常任委員会で於て下記の通り70年度のスケジュールが決定されました。
 - 1月15日 対1回伊勢湾ポイントレース(鬼崎)0900

22日 NORC支部例会 1800 喜多八

24日 対9回海技教室(天測)1300~2100 中小企業センタ~

3 1 日

- 2月 5日 NORC支部常任委員会 1800 総会 1900 喜多八
 - 8日 为9回海技教室(天劇)0900~2100 中小企業センター
 - 15日 " 0900~2100 鬼崎ヨットハーバー
 - 28日 45年度会費納入期日
 - 下 旬 小笠原視察
- 3月 1日 計測実施、安全検査実施(鬼崎) 1000
 - 5日 NOR C支部常任委員会 1800 喜多八
 - 8日 対10回海技教室(一般)0900~1700 中小企業センター
 - 15日 安全検査実施(鬼畸) 1000
 - 21日 対2回伊勢湾ポイントレース(鬼崎)0900
 - 22日 安全検査実施(鬼崎) 1000
 - 29日 " "
- 4月上旬 乘艦実習実施
- 4月 2日 NOR C支部例会 1800 喜多八
 - 12日 計測実施、安全検査実施(衣浦)1000
 - 19日 安全検査実施(浦郡)1000
 - 26日 " (衣浦、蒲郡)1000
- 5月 3日 熊野レース 0000-4/0000
 - 10日 計測実施 1000
- 14日 NORC支部常任委員会 1800 喜多八
 - 6月 4日 NORC支部例会 1800 喜多八
 - - 計測実施 1000
 - 7月 5日 計測実施 1000 *
- 19日 鳥羽レース 0000-1200
- 8月 2日 計測実施 1000

- 8月 6日 NORC支部例会 1800 喜多八
 - 23日 オ2回衣浦ポイントレース 1200~1700
 - 9月 3日 NORC支部常任委員会 1800 喜多八
 - 6日 計測実施 1000
 - 13日 ネービイ。カツプレース 0000-14/0600
 - 20日 衣浦レース 0700-1200
- 10月 1日 NORC支部例会 1800 喜多八
 - 4日 計測実施 1000
 - 10日 伊良湖レース(各フリートごとに実施伊良湖フイニツシュ)
 - 11日 伊良湖ミーテイング 空海協同救難演習
- 1 1月 5日 NORC支部常任委員会 1800 喜多八
 - 8日 野島レース 0000~1700
 - 15日 計測実施 1000
 - 29日 対3回衣浦ポイントレース 0800~1600
- 12月 3日 年末例会・年度表彰式 1800 主税町クラブ

3. 235「白雲」の動静

ロスアンゼルス在泊の「白雲 」より支部長宛の最近の連絡によると、今後の計画は次のと かり。

ロスアンゼルス 出 帆 45年1月10日次港への航程(以下同様)1,500埋 アカプルコ 入 港 1月25日 出 帆 2月 5日 1,200 厘 パナマ運河 バナマ入港 2月17日 コロン出帆 3月10日 1,200埋 トリニダツド 入 3月22日 出 帆 4月 2日 1,100 浬 冼 ベレム 入 港 4月13日 " 4月23日 1,100 建 レシーフ リオデジャネイロ 11 5月25日 " 11月 4日 3,310 俚 ケープタウン 11 12月7日 // 12月17日 4,810浬

フリーマントル 入 港 46年1月25日 出 帆 2月 4日 1,800建 シドニー "2月22日 "3月 2日 520建 ブリスペーン "3月 8日 "3月18日 1,600生 ラベウル "4月 4日 "4月24日 1,200生 グ ア ム "5月 6日 "5月16日 1,400生 衣浦(キヌウラ) "6月 1日

なお今後の補給の依頼について支部では、N. Y. K 南米航路船、およびケープタウンで 遺欧練習艦隊の「香取」(45.6 横須賀発)ならびにフリーマントルで南極観測隊の「ふじ」 (45.11 東京発)を予定、手配している。

4. レース委員会より

9月14日 ネービイカツプレース成績

		艇			名		順 位	
į	E F	1	СИ	RE	A N	I	1	ネービイ賞(舵輪)
,	A	Υ	Α				2	
1		や	ち				3	

b # 4

PETIT	PRINCE	D. N. F

NAVY BLUE I D. N. F

QUERIDA D. N. S

11月2日 野島レース

艇 名	順位
BUCCANEER	1 みなはや賞(アンカー)
A Y A	2
零	3
しゃち	リタイア
QUERIDA	D. N. S
NAVY BLUE [D. N. S

11月2日の野島レースを最後に支部の全レースを終了し、レース表彰式は12月4日内 東海銀行主税町クラブに於て盛会裡に行われた。

なお年度敢闘賞は新鋭の「しやち」に贈られた。

支部年間成績表

順 位	支部主催レース		順 位	鬼崎フリート主催レ	' - ス	順 位	三河湾フリー ト主催	レース
1位	АУА	3 6点	1位	しゃち	41点	1位	AQUAMARINE	9点
2	しゃち	28	2	EPICUREANI	3 9	2	零	7
3	NAVY BLUE [2 7	3	PETIT PRINCE	3 7	3	ちどり	6
4	EPICUREANI	2 3	4	A Y A	3 2	4	うらなみ Ⅱ	3
4	PETIT PRINCE	2 3	5	LYRA	2 8			
6	QUERIDA	12	6	NAVY BLUE [23	1. 5	and a se	
6	BUCCANEER	12	6	n t	2 3		s 1571.	
6	いせ	1 2	7	うずしお	14			
9	零	10	8	LUNA II	7			
10	LUNAII	5	9	ALBATROS	5			

NORC東海支部レースに関するアンケート結果(回答51通)

問 1. あをたはNORC東海支部のレースに興味をお持ちですか?

A	興味あり	4 7	9 4.0 %
В	興味なし	3	6.0%

問2. レースの回数は年間どれくらいが適当か?(現4回)

Α	3回以内	4	8.6 %
В	4 🗇	1 4	3 0.4 %
С	5 回	1 7	3 6.9 %
D	6回以上	1.1	2 3.9 %

問 3. 季節は何月がよいか? (問 2.の回数だけをつけてください)

1月	1 0	4.6 %	7月	2 8	1 3.0 %
2 月	9	4. 2	8月	1 4	6. 5
3 月	1 6	7. 4	9 月	2 0	9. 3
4 月	18	8.4	10月	2 6	1 2.1
5 月	3 0	1 4.0	11月	2 2	1 0.2
6 月	1 4	6. 5	12月	7	3.2

問4. レースの距離はどれくらいがよいか?

Α	3 0 海里以内	1 4	1 8.6 %	
В	30~40海里	1 8	2 4.0	
С	4 0~5 0海里	2 2	2 9.3	
D	50海里以上	2 1	2 8.0	

問 5. コースは?

Α	三角レース	1 2	1 6.4 %
В	湾内レース	1 7	2 3.2
С	湾内~外洋	2 9	3 9.4
D	外 洋	1 5	2 0.5
E	その他	0	0

5. 海事思想普及委員会より

海事思想普及委員会では、大洋における航路選定のために昭和5年刊行され、今は廃版になっている[大洋航路誌]より[帆船航路]篇を複製出版しました。との冊子は支部特別会員の方には無料で配布しますが、その他希望者は1冊150円で分けますので支部事務局まで申し込んでください。

6. 第9回海技教室のおしらせ

1月下旬から2月上旬にかけてオ9回海技教室(天測講習会)を下記の通り行います。参加希望者は12月30日までに会費3,000円を添えて支部事務局まで申し込んでください。

記

7. 支部通信対策特別委員会より

イ NOR C東海支部では年初よりヨットにおけるアマチュア無線通信について研究、実験をつづけてきた。このほどその結果をとりまとめたが、通信能力が甚だ大きいので一刻も早く普及すべきものと結論をえた。

使用周波数は1 4 4.7 2 MHZ と决定、その晋及のため所属艇塔載無線機に装着する水 晶発信子を支部において一括購入し支給することとした。(支給基準は別に定める) 因に1 4 4.7 2 MHZ の7 2 は無線通信の略記号として"PEACE AND FRIENDSHIP" を意味している。

- ロ 通信対策特別委員会の昭和45年度計画
 - (1) ヨット用アマチュア無線通信の基地局として、とりあえず鬼畸ョットハーバーを常置 場所とするクラブ局を開局する。
 - (2) 支部メンバーにアマチュア無線技士の資格取得をすすめ、受験講習、試験等についての情報を提供する。
 - (3) 支部所属艇に2mバンド(144 MHZ 帯)無線機の塔載を推進し、144.72 MHZ の使用を奨励する。
 - (4) 無線通信について適正な運用マナーを育成する。
- (5) ヨット用特定信号(号笛、旗旒その他簡単な適信手段による)を制定し、信号表を作成配布して、その普及をはかる。

8. 「C HITAII」の行動

「CHITAII」は現在ポルトガル領チモール島を出港し、パラオ諸島に向けて航海中です。 乗員は吉田弘明艇長、戸塚宏、日比正光の三名です。全員元気で航海を楽しんでおります。 今回はアマチュア無線21 M Cで、定時交信を行なつており、「CHITAII」の動行もよくつ かめております。今後の予定は12月20日頃パラオ諸島到着、

1月10日出港

1 月 下 旬 ホンコン到着

3月21日 チャイナシーレーススタート

4 月上旬マニラ出港

5 月 台湾、沖縄を経て帰国

の予定です。

チャイナシーレースにメンバーか不足しておりますのでよいクルーをさがしています。 又隅谷洋一君かダーウイン(オーストラリア)より下船し、帰国致しましたので、彼の持 ち帰えつたログより今迄の航せきをピックアップしました。

CHITAⅢ from Honolulu to Darwin

July23rb Nov. 5th

リポート 隅 谷 洋 一

(時間、日付は、すべて現地時間)

7月23日 オワフ島ホノルル・ハワイヨットクラブ出港

0745 スタート(ワイキキビーチ沖:ハナレイレース)

ダイヤモンドヘッド沖を折返しカワイ島ハナレイへ向う。

2000 オワフ。バーバスポイント通過

24日 午前 カワイ島、ハナレイ湾沖フイニッシュ

26日 1530 ハナレイ出港

27日 夕方 ホノルルアラワイヨットハーバー入港、ワイキキョットクラブで紡う

8月 1日 1000 ワイキキョットクラブ前出港

- 2 1 0 0 カウマラツブア港(ライナ島: Doleパイナップル社所有) 入港
- 8月 3日 0605 カウマラブア出港 無風の為全航程機走
 - 1015 マウイ島ラハイナ入港
 - 5日 0630 マウイ島ラハイナ出港、同島を離れるも風速40ktをこし、 引き返す。
 - 1130 同島ケオネアイオ付近に錨泊(転流及び海峡の風の静まるのを 待つ為)
 - 2 1 1 5 揚錨、出帆
 - 6日 1030 ハワイ島カイルア港入港
 - 8日 1015 カイルア出港 南下
 - ◎との間 ENEよりSEの風、風速約20kt、晴れ、時々スコール、 正午気圧1013mb、30℃。
 - 17日 0850 英領フアニング島ランドフォール(同島はオーストラリア Burus-PIhillipes Co所有、コプラを生産人口500)
 - 1315 同島ホエールハーバーに投錨、戸塚、隅谷泳いで上陸
 - 1400 揚錨
 - 1525 環礁の切れ目より礁湖内イングリッシュハーバー入港、錨泊
 - 20日 1210 出港 アメリカンサモアに向う 深夜赤道通過、南線に入る
 - ◎との間 ENEよりESEの風約15kt、晴ないし曇りスコール多く時に雷を伴う。(今航始めてスコールで体を洗う)正午1013mb33℃
 - 31日 0820 マンナ島ランドフォール
 - 1740 機走開始
 - 9月 1日 0420 帆走開始

- 9月 1日 0730 アウヌウの間を抜ける。この頃より雨となり視界悪し
 - 0930 名物の激しい雨の中、サモア諸島、米領ツツイラ島バゴバゴ港入港、投錨

レイバーズデイで諸官庁休み、手続及上陸は2日となる。

- 8日 1430 抜錨、パゴパゴ出港
 - 9日 1130 西サモア共和国ウボル島アピア入港
- 12日 1120 アピア出港 フイジーに向う
 - ◎との間 SSW~SEの風11~16kt、正午1017mb、30で 13日中にデイトライン通過
 - 17日 1430 サウスケープ通過暗礁地帯に入る。本日より東経に入る。
- 18日 1400 オバラウ島とヌガウ島の両西端見通し通過
- 19日 0600 機走開始
 - 0750 英領フイジー、ヴィテイレプ島スヴア入港ロイヤルスヴアヨットクラブ前に投錨
- 29日 1150 スヴア出港、ニユーペプリデスに向う。
 - ◎との間 SE~SSEの風6~10kt(但し10月2日のみNNW、 15kt、1014mb) 請又は曇り、スコール多し、正午 1017mb、32で 途中二度日本のマグロ漁船と会い、二 度目の時は、カツオ2本差入れられる。
 - 10月 4日 0600 ロベリ島ランドフォール
 - 5日 0745 ダイアモンドパツセージ通過
 - 0800 バリクロ港に投錨、日曜の為入国出来ず、終日艇上にて整備 (英・仏共同統治ニューヘブリデス諸島、エスプリッサント島)
 - 6日 朝通関、入国後、南太平洋漁業棧橋に舫う。
 - 10日 1350 パリクロ出港 ニユーギニアに向う。
 - ◎との間 ESE~Eの風10~16kt、1016mb、32で飛魚多く、17日朝デッキ上で38匹を記録

10月20日 1315 バシリスクパツセージ通過

1 4 0 0 ポートモレスピー入港(豪領ニユーギニア)

1430 パプアヨットクラブ前に投錨

25日 0715 ボートモレスビー出海

26日 夜、北へ流され、フライ河河口(水深16m)にある模様の為セールを おろし漂泊、天気悪く天測困難

2 7日 昼近く、トレス海峡入口付近に達する。ENEの風つのり、20kt近く なる。

1305 ダルリンベ島通過

1700 ウオリアー島に近ずき、同島西に錨泊

28日 1300 ポール島265°6 M

夕方、難所トレス海峡を抜ける。終日ENE、20ktをと し、全員オンウオッチ

29日 風落ちる

◎との間 風ほとんどなく、デイラン約30M、正午1013~4mb 35で

11月 4日 メルビル島、バサースト島通過、風なく、潮早し、ワニがいる模様。5日 朝、オーストラリア・ダーウイン入港。

Ⅳ京都支部

(記事なし)

V内海支部

1. 大阪湾横断レース

会 田 督

台風12号・13号が、日本列島を覆つているとのニュースに不安を覚えつつ、10月5日のレース日を迎えた。当日は、空がよく晴れた、絶好のレース日和になりコミティー同、

ようやく 胸をなで下しました。だが、台風接近の報道のせいか、 参加艇が少なかつたのは残 念でした。

レースは0600須磨ョットハーバー港外の突堤と、コミテイボート「アルテミス号」を結 ボスタートラインを、スタートした。風速3~4m、NNEの風を追手に受け、各庭いつせ いにスピン・ネーカーを華々しく開いた。須磨より真南に当る。フィニイシュラインの淡輪 黒崎港へは、そのままの風向で、大阪湾の真中当りで、一時風か落ちたが、スピンネーカー のレースを終始した。この季節のこのレースはいつも、追手のレースになる。ランニングば かりのコースはいささか単調である。今后コースに一工夫致したい。

レース終了后淡輪黒崎港に集合した各艇は、レース報告書呈出后接戦だつたので、それぞれの戦積を気にし、修正時間の算出を待ちかねていた。

成績は下記の如くなつた。

艇 名	艇 長	T. C. F.	着 時 間	所要時間	修正タイム	順 位
又 玄	長 尾 方	. 738	1 0.4 4.0 0	h m 4 44	h m s 3. 2 9. 5 9	2
テンコチ	沼 田 仁 志	. 638	1 1.0 3.2 0	5. 0 3. 20	3. 27. 25	1
ドンドロ	前田邊一	. 700	1 1.0 4.2 0	5. 0 4. 20	3. 31. 4	3)
ピバ	荒川勝彦		1 1.0 5.1 0	5. 0 5. 1 0		軽クルザー ①
菊	山城博己		-			D. N. F

次回のレースは11月1日~2日高松レース。11月23日幡磨離レース(オープンレース)を行います。多数艇の参加をお願いします。

VI 西内海支部

1. 会費納入状況について

特別会員 14名中 未納者 6名

正 会 員 26名中 未納者 9名

計15名の方が未納になつています。本当に体しい気がしますNORCの趣旨に費同し共 にヨットに興味を持つ同志として交友を深めていたのに残念でたまりません。今からでもお そくありません一つ納入方おねがいします。

2. 支部会員の皆さまに

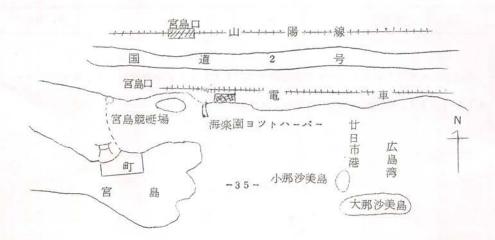
田中敬一氏と夏より色々考えまして会員に何か記念になるものをと現在業者に依頼してま すのは西内海支部を象徴する循です。会員には一ケづつ配布しますのでたのしみにしていて 下さい。

3. 広島、別府、泊地について

瀬戸内海を西下するヨットがふえてきています、それで泊地に困られる方か多いようです のでお知らせします。

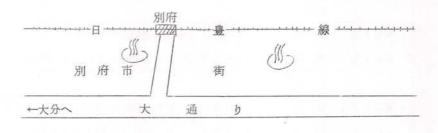
△広島は安芸の宮島を正面に見る地点景色のよい所に海楽園ヨットハーバーがあります。ハーバーマスターは会員の岩田行史氏です。NORC登録艇であれば大歓迎だそうですので宮島広島観光には是非御利用下さい。

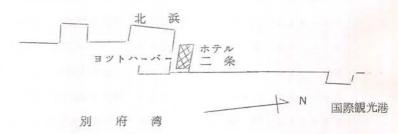
広島県佐伯郡大野町宮島口 電話08295-6-0316



△別府は市内の中央北浜にヨットハーバーがあります。水深もあり交通の便が良く最良です。 大きな艇も2.3 泊地に利用したことがあります。ハーバーの横のホテル「二条」には会員 の松野亘秀氏が色々便宜をはかつて下さいますので個利用下さい。

別府市北浜2丁目14-18 ホテル二条内 電話0977-2-5907





WI 会員及び登録艇

1. 会員及び登録艇の現状

12月1日現在

12.31

				特別	IJ	会員	正	会		員	準	会	員	Т	0	T	A L	登	録	: 凝
関	東	支	别	1	6	9	5	4	3			4	6		7	5	8	1	7	7
東	海	支	部		3	2		9	5				6		1	3	3		3	2
京	都	支	部		1	4		2	9				1			4	4		1	6
内	海	支	部		3	3		5	6			1	9		1	0	8		3	9
西P	内 海	支	部		1	3		2	7			3.115-	0			4	0		1	0
T	O T	Α	L	2	6	1	7	5	0			7	2	1	0	8	3	2	7	4
		1777	-																	1000

222

2. 会員の異動

(a) 住所変更

会		員	NO.	E	E	Ä	3		Ŧ		隹	所
F	関東	支	凯									
				特別	训会	1						
	6 6	4	2	坂	脇		実	2	3	7	横須賀市浦郷町2-50	
	4 0	1	2	渡	辺	修	治	8	5 '	7	佐世保市須佐町 212-1 グリー	ノヒル1 5号
				Œ	会員	員						
6	9 -	0	7 2	坂	東	陽一	一郎	1	6 '	7	東京都杉並区成田東4-16-	2 0
	6 0	0	1	福	吉	信	雄	1	5	2	" 目黒区原町2-2-10	
6	8 -	9	1 3	後	閑	宗	챞	2	2	7	横浜市緑区つつじヶ丘5 - 1青	葉寮
9	6 -	0	0 3	羽	Ш	泰	夫	2	3	6	" 金沢区平潟町75-12-	1 -3 0 5
6	9 -	0	1 4	本	藤	安	志	2	8	5	佐倉市上静1 8 0 4 - 3 5	
6	9 -	0	0 7	五十	上嵐	富	久	2	4	1	横浜市旭区上川井町2278	
6	8 ~	9	1 4	神	藤	賢	次	1	6 4	1	東京都中野区中野1-61-3 城山	マンション204号
6	8 -	9	3 7	児	玉		登	1	5	4	# 世田谷区下馬5-7-2	1
6	9	1	1 5	宮	井	成	悟	3	5 3	2	埼玉県北足立郡新座町西堀33	
	7 7	8	3	岡		武	人	1	5 (6	東京都世田谷区桜上水2-22	アパート1 - 3
6	9 -	0	5 7	奥	田	文	典	5	6 ;	3	池田市緑ケ丘2-2-10 藤沢薬	品(株)池田寮
1	6 6	3	1	李		彩	銘	9	7 5	9	福島県双葉郡浪江町広町7-3	
3	7 8	7	4	関	Ш	光	=	2	3 :	3	横浜市港南区下永谷640-1	0
	7 8	2	0	Ш	本	雅	通	2	2	1	横浜市神奈川区白楽17川口荘	8号
6	8 -	8 8	8 4	横	Ш	健	治	4	7 6	6	東海市名和田池東2-3 坪井	工業名古屋寮
į	5 5	5	3	神	服		艘	1	8 1	1	三鷹市下連雀9-5-1 泰成	マンション
T				準	会员	į				ĺ		
6	9 -	1	3 3	Ξ	石	利	光	1	8 8	3	都下北多摩郡久留米町大字下里	1 3 3 3 - 1 - 2
6 8	8 -	9 '	7 7	墨		芳	郎	5	0 (0	岐阜市若宮町2-22	
Ē	西内	海3	达 部					-				
	4	0		橋	本		洵	3	3 2	2	川口市青木町5-1221中銀	マンション 1 - 4 0 3

(b) 会員間の異動

支	部 名	会 員 No.	氏	名	所属艇
		(特別会	員より正	会員へ)	
関	東支部	1 2 4 0	守 谷	勝吉	DAMOI
	//	7 7 9 6	ш ⊞	晴 由	祗王
内	海 支 部	9 2	木 村	治愛	
西	内海支部	1 7	佐々木	司 朗	慢 々 的
	20,000	(正会員	より特別	会員へ)	
関	東支部	1 0 4	今 井	彪	(676) FURUTORA
	//	6 6 1 1	小 黒	公一	(684). 毘
		(準 会	員より正名	会員へ)	
関	東支部	7 8 2 3	遠藤	愛一郎	浜 弥
	"	7 8 2 2	浜 野	元	<i>n</i> = 1 = 1 = 1
	"	7 8 4 4	本間	純 孝	さがみⅡ
	"	6 6 9 6	村 木	博	CONTESSAI
	//	6 7 3 3	大 鳥	富士雄	BLUE RI.BBON
	"	7 8 7 3	長 田	泰 範	CONTESSAI
		7 8 6 0	佐 藤	潔	BLUE RIBBON
	"	7 8 7 4	関山	光二	潮風皿
	"	6 8 - 0 9 2 9	島	敬悟	智美
	//	68-0942	斎 藤	宜 丈	NADJAI
	"	6 8 - 0 9 9 9	須 田	勉	BLUE RIBBON
	//	7 8 6 9	内 田	寬	NADJAI
	"	6 6 3 7	渡 辺	康夫	天城
京	都支部	3 7	狭 山	信 矩	нтнг
内	海 支 部	6 8	吉 井	囊	
		1 2 0	中 庭	勇 蔵	

(c) 会員名簿訂正

会員Na	氏	名	変 更 事 項
関東支	er e		
1000	(特別会	員)	
3 4 2 3	芦田	等	自宅 TEL (045)622-0484
4012	渡 辺	修 治	自宅 TEL (09562)3-7517
	(正 会	員)	
6 9 - 0 0 3	羽山	泰 夫	自宅 TEL (045)781-1335
69-007	五十嵐	富久	日本電子(株)開発部材料研究室 (0425)43-111
68-0914	神藤	賢 次	自宅 TEL 呼(369)5367
68-0940	宮 森	和 美	
6 9 ~ 0 7 9	三 船	清 治	横須賀市舟倉町880 加藤ボート工業内
6 9-0 1 2	小野寺	文 雄	横浜市南区宿町 2 - 3 0 旭メツキ内
68-1005	添田	就正	勤務先 TEL(272)7411
(東海支部よ	か移籍)		
164	内田	建也	名古屋市南区松下町3-1 (611)2701 石川島播磨重工業船舶設計二課(611)3111 内 385
内 海 支 台	部		
1 2 5	野 本	謙作	大阪府阿倍野区帝塚山1-14(06)652-4931
21	猪上	忠彦	フリート(西宮)ドンドロI
3 6	前田	塁 一	. " " "
113	佐藤	征司	早川電機宣伝部 (西宮)ドンドロ [
140	谷中	宏 延	神戸信用組合 ""
西内海支部	FIS .		
1 7	佐々木	司 朗	広島市役所建設局土木部公園緑地課 (452)2111
			内3 6 1

. 3. 新登録艇の紹介

支	訊	セール NO	艇名	RIG	クラス	$L O A \times L W L \times B \times d$	オーナー	フリート
関	東	157	BLUE RIBBON	Y	Ш	8.5 4 0× 7.8 0 0× 2.7 0 0× 1.4 5 0	中谷林平	油壺
		676	古 虎	S	V	6.2 0 6×4.9 0 0×2.0 5 4×1.3 5 0	今井 彪	磺 浜
		677	AOLELEN	"	IV	9.0 7 0×6.7 1 0×3.0 2 0×1.3 5 0	向井七男也	油壺
		6 7 9	PLUMI- ERIAI	"	"	7.4 9 0×6.1 0 0×2.3 0 0×1.5 5 0	天野昭光	諸 磁
		680	太郎	//	"	23' 00"×	浜尾洋一	江の畠
		6 8 1	しょうがく坊	//	"	7.4 9 0×61 0 0×2.3 0 0×1.5 5 0	神保和也	諸 磁
		682	BAMBOO LUCK	"	v	6.1 0 0×5.3 0 0×2.0 5 0×1.3 0 0	吉竹 力	"
		683	PUFFI	//	īV	7.4 9 0 × 6.1 0 0 × 2.3 0 0 × 1.5 5 0	本間武男	"
		684	毘	"	V	6.5 0 0×5.4 0 0×2.0 4 0×1.4 0 0	小黒公一	
東	海	2 4 5	零	"	V	6.2 0 0 × 4.9 0 0 × 2.0 5 4 × 1.3 5 0	古橋武雄	鬼崎
内	海	532	ひろ	"	N	7.4 9 0 × 6.1 0 0 × 2.3 6 7×1.5 5 0	塩見勝茂	
西内]海	83	CREATIVEI	,,	V	6.2 5 0×5.6 5 0×2.6 0 0×1.2 0 0	姫石正行	広 島

あ と が き

今年とそは、このニュースも味のある感じのよいものにしたいと思いましたが、ついて変り 映えしないまままた新しい年度を迎えることになりました。

次のニユースから横綴じといたしまして新会員を名薄に綴込み易くいたします。多少ご意見 のある方も居らるることと思いますかご了承を顧います。

これからは新らしい事務所で気兼ねなく事務が執れることとなりましたので、会員の皆さん も、お立寄りになつてよきニュース発行のため、よきご意見をお寄せ下さいますようお願いい たします。